風俗文選

二

而二

賦類

譜類

へ5
688
2

跋

東京都立中央図書館蔵

南都賦　汶邨　鎌倉賦　許六
吉野賦　文艸　松嶋賦　芭蕉
富士賦　嵐蘭　湖水賦　李由
前麿山賦　支考　後麿山賦　去來

利門 688 巻 2

風俗文選卷之二

賦類

南都賦

五老井　許六選

あれよりなしの乃孤峯さつひ三笠山乃襟なる元明天皇の和銅二年の春京師を移さるる大宮殿八佛寺佛神をあら矢て。玉垣を輔く。若草の乃中乃月日の文殿鬼殿。尾上の宮。鏡乃神を。横の廣徑をまもり。浮雲く乃宮。榊乃枝乃。氷室。卒塔婆。八幡。興福寺の八幡。二月堂。若狭井あり。二月堂。閼伽井。春日。春日の大門の折紙を。源の彩乃幕を張。興福寺を

明治三十八年十一月五日 坪内雄藏氏寄贈

汶邨

七堂伽藍ゝゝ等を山階寺と号す。中ごろ馬屋寺と号す。和
金堂。中金堂。食堂。講堂。鼓楼。鐘楼。僧房。
うけして。願文の札を細めて。東園堂よりいろ〳〵の八重桜
をおしく。花垣の庭を飾ど。西金堂より楽をあらそ
南大門よりうけして。薪乃能をそうじゝ。七度まで能よ
乃猿楽をめし。面天ゝ紙を噛で。試こ。夜ゝ伝ゝ薪を積
く。樂。保せ。ゝ清乃ま。名人乃号をとり。大倉が芭蕉
ゝ。遣人の名をあらそ。次ゝ屋の能。若ゝ乃能。青田翁乃能
祭。素絹ゝ大飛の能をはくみく。大華表よはらゝ。錦を
敷く。其の下ゝ天乃ゝ立合を舞。屋乃児ゝ。舞ま
衆をかけ。赤衣乃仕下ゝ榛を持ゝ。大名馬。大名鎧。大名
持。小ゝ乃持。競ゝ。流滴馬。ゝ谷ゝ。黨ゝ甲冑。武等ゝ。射ゝ
乃兜ゝ。後箙。ゝ乃矢を持。関白代ゝ東等ゝ。蔵乃宝を
いぞ。バチョ乃兜ゝ。仕つ。揺ゝ。ゝ殿をはゝ。ハイケ
乃神ゝ。ゝ。ゝの祈ゝ。細男。ゝ。ゝ乃楽人。トカゝ。拍子ゝ。仕
ゝ乃宿老。ゝ屋の御幣。田楽乃ビンザロ。ゝゝ二月ゝ。宮ゝ
ちゝ。みゝゝ。ゝ月の月をさゝ。ゝ。ゝ乃ゝ楽
を舞。ゝ。ゝ。葉ゝのゝ。ゝ乃ゝ。ゝ。ゝ。ゝの
池ゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

法乃池と法ふ。家無柳。良辨扶。房注の北義。文使乃北義元
奥ちゝ法ふ。鬼乃ゆ所痕よなくれ。十三種ゆ。七つ六ゝ乃間
ゆ。角寺。紀ち。叔寺より大候の文を原し。何ゝの物と
ゆ。義仲の程とゝゝむ。三ゝ衡八治家より燒。松れを永孫ゆ誌
を。後家湯乃法をふむゝで。龍乃村院八彩とおこふ。鹿無系
仲磨の物ち晩を。をなゝ。抑。保花ゆ乃碑ゆ。俗巴乃
ちゝゝとゆ。華原磬。泗濵石。京奈仲物仲所。時乃毛の
房風。柳生乃刺術。家羅院乃十文字。法毛ち物ゆ
大ゆ。ゆたち乃豊心冊。法海味昌。力飽陽。なゝ濱奈濵奈
法。んゆ。なゝ間風。墨。曝。世よ名ゆ。ち。打滝。中德ち
山家ゝち紀ふ。若井ゝ奥ち。文孫ち打ゆ。膠。保ち。鞆。皷乃

皮。公風名。庚炮垣。櫟ゆ孫。なゝ系ゝヤヂウと名つを。金と
硯水とつゆ。油桐。文合。祢宜。乞ち恢乃石。稼ゆ村のゆ。
系ゝ。ゆち。防風乃赤飯。よたゝゝ。渡ゝる人ち。金堂乃証
物とつゆ。ゆ辻乃法。ち。ゆ。ち川の別ち。情ち万金ち。
ゝ一命を抱ゆち。ゆち七ち。京八系。所ゝゝち。御門の系ち
て。文系ゝ系ち巻ちとち。ち。法ち。麦ゆの名紀。去姫乃なちち。
法ち。ちすゝ。法人ちゝゝち。ち。皆四ゆのゆち。ゆ。遺
風ちゆゝ。

鎌倉藏書庫

許ち

支桐接ち。法食ち。那の名ちて。大聽冠法ち名乃村雲

蒙まうけく。源を望びの使せこの乃ゆくよ那乃名とし。終
那乃時ゆ。熱田近補使として。文武の御宇より。武乃
神器を中ゆてこそまをすれ。上総介平忠常
より使して。八幡太郎義家名ゆ。源氏代〳〵武徳
乃忠なり。賊して曰。

○三代乃將軍。九代の執權。其の発さけバ。始の名を変。
柳ゆ。こゆ。こゆ。乃罪。鶴ヶ岡の殿。下ゆ。若さハ。
頼義名ゆ。の建立して。上乃若宮。源二位の神社なり。
宮柱太しき立て。民の名ゆ。相模乃国。江の島いこ神財
天。こ流て。杜戸の明神あり。多合ヶ原ハ。お掃入乃ヶ
開たる乃。由井の浜。下河辺ヶ持。庄司。笠懸を射ゆ。

小袋坂。稲村ヶ崎。七里ヶ浜。風と波ヶ。荒ゆ。磯と波ヶ。谷ゆ。
所乃名乃。数の。堅あり。勝乃名乃。
一。兒ヶ渕。一ハ。白菊ヶ元朝。所を。
家ゆ。親王ゆ。ゆ。
蓮盛久ヶ首の。塵。
優婆の。ゆ。
長。
墓を。
主。
ゆ。
ゆ。
浦。

をきさらぎ山ほとゝぎす。花が谷。帆が谷。楊が谷。松ぶが谷。建長寺。
瑞鶴山。円覚寺。海蔵寺。石別当。玄翁の墓。
松ぶ屋。亀谷の尼寺。也。龍口。釈迦堂。法地蔵。深沢の大仏。
長谷の観音。金洗沢。星月夜の井。稲乃下。小あ。あ丸
牛ゐ。くぐ。成就。そそ。小栗乃。祇園。八幡。山。強盗を
祈る。阿弗。鳴。日記。立。働。墓乃。紀。乃。長。雨。乃
下。よ。花を。踊て。惰。を。岩。を。山の。月。よ。能。を。待。く。眠。
夢。を。絶。叶。の。ま。平。嘲。ら。嶽。乃。宮。礎。の。あ。と。感。慨。乃
情。と。し。。鳴。乃。夢。ち。情。四。の。場。を。鄭。。。。を。義。ぬ。ま。て
いや。し。め。た。所。の。業。螺。い。。。寿。平。ら。廉。相。を。あ。て。。苦。磨。。海。
光。紫。羽。ま。く。く。魚。敷。の。類。あ。ま。ま。ぐ。き。い。ま。白。あ。ま。を。。ま。る。流。

おーとうかよハぬはなし。。。。ーの地義ち。武相の境こし。
六浦。金沢。ぶ。ぶ。ーの地なわ。沢。ち。乃。沢。ま。ハ。西。橋。一。望。の。眼。
をさ。沢。能。乗。ま。ま。ハ。糸。恵。泳。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
乃。松。。。海。の。文。庫。と。ふ。ち。称。名。ち。ま。あ。て。今。ち。な。。文。
孫。像。善。賢。像。さ。く。稲。。。稲。。。稲。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。
ふ。ふ。沢。。。ち。の。二。稲。を。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。
ぬ。ち。た。ち。。。廣。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。
。。。。。。。。。。

芳野賦

文帝

[illegible]を[illegible]とつふる。[illegible]乃地なる紙ばるわ。山川墨。[illegible]
嶽。高根尾。山の井。花園を洒ぐ。すべて二十代の。有数
三百七十余首。[illegible]の集。あり類。結題。桃花のそぐ。ひ
作川田長[illegible]あるべし。貞室老人乃。これ[illegible]まで。かぞ
[illegible]。[illegible]ま[illegible]ん。さ[illegible]ば[illegible]の吉野。お[illegible]
ちぎみ乃桃花乃所。[illegible]。[illegible]川花の[illegible]。
[illegible]和尚。[illegible]の[illegible]。[illegible]巴り[illegible]紙
[illegible]。紀の和[illegible]。[illegible]。[illegible]

なる[illegible]。藏王堂。[illegible]安置。一歌。[illegible]八郷。[illegible]上市
[illegible]。飯貝。[illegible]。下市。[illegible]。六田。[illegible]。妹背
山。[illegible]。[illegible]乃城。[illegible]。[illegible]の[illegible]。[illegible]乃[illegible]
さ[illegible]。[illegible]。[illegible]の花。流ざ[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
舎。花[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
山。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
人乃[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
乃[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
朝乃[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

痛腰乃ホつゝどゞ弟ゝ。広佐ゞ宮腰の地なり。猶よ社家
花よ。静ゞ軍の紫末を納め。まち乃毎月乃三の位ゝ定
家つゝ乃ゝ頃 奏上乃桜 永徳ゞ筆 桜ゝ乃ゝ。金情乃四神。カゝ乃
不動。ロつゝ紀義。ゝる筆乃御新筆よハ。花鳥ゝ乃絵ゝ。
乃ゝもゝ。桜ゝゝ。富山の光遍也。乃滝。ゝ乃滝。西河の滝。ゝる滝。
瞬ゞ滝。清明ゞ滝。葉つゝ川。やゝ乃ほゝ乃ほゝ乃ほゝ乃ほゝ乃象の稽。
神ゝ乃。鶯ゝ乃。鶯乃尾の猪。就遍ゝ乃器。赤石ゝ乃大板。人
鬼滝。芙蓉乃ゝ。琴乃ゝ井。理遍乃松。ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃猿川坂。
琴ゝ紫。跟理也。山ゝ乃ゝ。釈迦ゞ嶽七十二ゝ乃ゝ八十乃岩
むゝ。ゝ頃。遥ゝ二ゝ乃通路なゝゝ。舞を頭中。ほゝの
見ゝ大打。濃ゝ紙。漆。蕾。遍ゝ。釣。籠。榜ゝ乃ゝ。

竹ゝ細ゝ乃ゝ。弾。材ゝ。山ゝ。ゝ。さゝ。ゝ乃ゝ。よゝ名ゝ。
よゝ乃ゝ桜ゝ。名ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
乃ゝ山ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ゑびさくの名。吉野といふる花をきぶやら石や
とも称ス。陸奥をつきぬてくこゝろみの社。

松島賦

芭蕉翁

ことゝしてゆくとしのそら神ごと。扶桑第一乃好風
まして。松洞庭西湖を恥ぢ。奇勝海を入て。江乃入
中三里。渐江を渡て。七十二峯。数石の浦々。
歌枕とゝ天を指。海をとゝ波よ甫匐。あるゝ
二るとゝかさなれ。こゝろとゝよとゝてたゝえん。右ゆく
なる。扇ゝあり。抱ゆあるゝ。呪孫ゆしるゝ。ゆ
ゝゝ。ゆゝゆゝ。渥海。ゝゝ。ゆゝ。牛潟。地ゝゝ内

裏海。屏風ゝゝ。色ゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ

興して。七堂伽藍となん拂ひ。法蓮寺を。海岩寺
時。老僧彩を。ひさし。菊綠波よりひろ。雲の緑こまや。
りか。校家汐風より吹く。風曲をのびうち。
うるうでし。其氣を宵松うして。美人の影を。
ちくや振神のむし。大山ずこ乃なきるとざるや。岩
他の天上。つき。ふべら。月をとみる。泊を。
さし

富士賦

嵐蘭

○和二ゝ日本の美。蓬萊山也。ひう。靈。多。ひう。
先て。現。。像福。山。山。登て。仙。を。求。ゆ。ゆ。姫
。。木。化。て。ゝ。靈。。。

乃序よ。二流よりも紙。ぶらくりを廻、恐よ怖まて。一天
八さの号をとゞむ。祭宮くの人ハ。宮冠よ頭をつゝみ。
下向乃ゝ。小祝の砂をとゝ。絶頂乃軸。ぶ脳の
雀。巣奮ハ大心にて。伊与乃雲山よおとし。ゆ
乃羽をよハ。臆病よなりく。紙のまよ逃げ。海ゞ海
苔。石亀庚。富士年ゞ。ゞゞ芙蓉。栗。柿。松。橘のま
ゝをくひ。住居ハ竹の下紙。板屋ぶゞく。関を見極て。
横ぼ乃冥。ゞ井の海に。作夜ゝ心紙。海を渡
巣をかさぬ。こ保清見乃乃足紙。貧ゝ。
貝ゞ。魚乃格よ。馬ゞ。人の首をめぐりし。赤坂
強の巣よゝ。家ゝ紙。ゞ。ゞ。ゞ

湖水賦

李由

○近江。もしは濱海なりしを。大なるよりきこえん。近江は
はるかなるさかいを。遠江とも号をとる。仁賀より二代。
景行乃御宇。滋賀の郡より。近江あつく。高穴穂宮
より行幸を。こゝ十九代。天智帝。大津の宮より。
廢帝乃御宇。保良乃郡を。京より。近所にて。六十七
郡。保瀧。潤澤。稔り信を。得。資氣。早く。到。四
方。大よく国と称を。仁賀より七代。孝靈天皇。地裂湖
となる。同時富士山。現を。さゝ波を不二。鎮定する。
近江人を。先達とさゝむ。善績一郡。已上。湖となる

て今八なし。郡乃保。一村郡。を。郡。奢。して。坂田の
新郡。に。属を。国。国。家。音。篠。近江の。西湖。海。と。大事
さゝ。ゆ。二里。ゆ。ゆ。ゆ

すめり。白石と云ふ。四石開上より時。樹まの一株也。
奥の海ハ。人家有百。麦の麦を產とす。精濯。器
山。高ばのハ海なり。多ハ形ちるれ巣はうり。勢田の
平海より。蛇柳あり入。亀ヶ岳の二海ハ。鏡ヶ江
乃中より海へ。出る所の聖をたゆる。渡伊
吹乃新をうり。柳ちを物田。書柳乃稲。松ハ幸渡
千ちれ雲。蓮ハ支那より名こるく。蓴菜ハ四川より
肥くり。柳大根。兵うと葉ハ惜牧。長浜絹こる。
布。紙粉ざる。こる路取。米作里。白波石。赤木材
木。庵石ちまりまりまる。紙ハ大洞
乃白石。是方解石也。伊吹乃麦ハ蕎麦ぬる。艾石灰業

稗乃類。ちくも。岩茶。日野。饒ハ舎津乃根ち。ちぐら
き焼ちこる。蕪乃ちを也。濃元丹。百ちく茶。惜ヶ田茶。
醒ち井。鮒。多賀。投ち。繩村。鴻。四千九張乃きを。
池の川。瀧汗。ちち。鯽。國分。鉄。焼。米作。判の八合。
是柴田勝家之製。軍中兵粮ノ助トス。端ヶ谷のチバン。佐々木家ノ臣慶也。其子孫ノ者農ノ父ニテ今ニ在ル。
大津ちる。花。淳材。木と。飛。強。倉の生食。ちち。
ちわ。ハ。湖中乃猟。以ち。尾上乃ち。よ。編笠。
ちちち。石垣つき。ハ。阿弗。人を天下より用。白。鼠の沖
神ハ湖ちり七度乃ち。ちを。ちを。ちを。後。湖。ちの神
ちの。日。京。本の沖。廟也。ちの。ちの。ちの

新羅乃社ハ源氏ノ大ゐなり。厳を置しくゆ大津四
乃こゑのゆゑ社。今ノ浜乃八幡宮。豊満の神ハ懐華を
ちつこ。宇賀野の神ハ八幡ハ井十四座乃正坐也。天松山
のゑし神ハ鎌津奉拝金ゑとゆ奉る。金徳乃志神
を祈バ。金富山ゑ迹を垂。宮すむ平田山。鳴宮乃天
神ハ市ノ篠原也。天神ハ。天津根合下ゑ。
本宮の神ゑ。ゑ。ゑ。この社家ようゑ。ゑ。ゑ。
神代ゑゆはゆゑ。大徳ゑ位。鶴谷の祈ゑ。
乃社ゑ。ゑ。ゑ也。山上乃観世ゑ。堀川乃ゑ宮。
寛治三年。白川の上ゑ。市ノ辻乃地也。神ゑ社佛
閣。金剛山乃深ゑ乃ゑ。地を稲ノ。今の小野

寺ゑ国堂あるゑ。石山ハ観音ゑ。陽石ゑ白瑪瑙山ゑ
黄金なり。皇所金山の始ゑ。ゑ井ハ国城寺ゑ。
名ゑるく。ゑ。ゑ。なゑ乃ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
延暦ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
寺。堅田乃法華ハ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
頂乳の札ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
阿育王乃塔をゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
行基四十九院をゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
神霊山ノ一峯ヲ盗ミ。湖水ノ瀬ニオロス其下ニ
隠デ石ト化スベシノ荒神山ノ蛇右是ナリ。

洲乃一寺ち。安人孫ち。西ち山よなぞ〳〵へ。高陽の辻堂ハ。
二向付宗の源ゝ。て。仲師ち。ち。の遺玄帳ちりハ。知是
高生の郭文ゝ。ちかゝ神ゝ。ー。瓦瀑寺ち下。茶ハ。鶴
道風乃ち。頃。池ち乃八夫の繪ハ。金堂の等也。山禁寺ハ。
作ゝ木道誉が菩提所。コンクイ乃作ゝ。白義ゝが寺也。
般滝寺般若院ち。那次ち市ち。飛出ゝ。ゝ。野寺ち
薄。練貫乃ゝ。松尾寺ち本堂ハ。飛滝乃近ゝ建て
ゝ。ち。ち。の。ち。ち。ち

所名所。一百余年前。拾集ふ諸すくもの。
近江八景を。騒人墨客ら。ものを。近衛政家公
の所をば。先ず。国中云ふ所。酒汁なくれば流れ。
戸ふ清酒をとりて。うるはしき。
一ふ。又茶ふ宜し。世ふ川魚とのつる。
なり。汝たり。也。海ふ乃ひとなるもをり名付大細巻細
四年。紙巻年九。庭細氣。菓。カリ。竹輪あさり。つる
ふ乃あつ物もよろしく。べし。鯉。鮒八。
品類。鮒の。ぶくひ。ぶを。右かぶ。ふよいとあるし。春八。
次の。ふを。ぶ。秋八。鱸ふ。紅葉をちらす。江鱸。鰐乃
名を。変し。鮒。鱸乃味をとり。れふ紀。あを。魚と名

ブナ。鯉八。ふ城。五十里を。去をとり。や。勝田。鰻。和尓。鮒。氷
魚。を。近江ふ。ざ。内膳式云。田上ニ取。逆ニ。メルヲ。宇治ニテ取。九月ヨ
不賀比。鮒ノ。フト。鰌ノ。カト。鱸ノ。月ニ。ノ。使ヒ。氷魚ヲ。捕モノヲ。細代ト云ヲ。
ギ。鯉。鱸。蟹。小。鰕。蟹。幌。幌。小。亀。乃。亀。ぶ。鱸八。魚を
茶。ふ。川。ふ。ふ。相撲。を。ふ。孤。を。大津。石。搜。と。称。を。八
ヶ。乃。漆。津。大。九。ふ。小。九。ふ。ふ。や。川。は。を。を。木
名。孤。ふ。漆。俗。馬。八。川。ふ。ふ。や。川。は。を。を。木
鯉。乃。魚。を。也。肥付馬。不入舟数。棚。な。中。ふ。墨。田。海。ぷ。ら。乃。八。海
を。ふ。火。湖。上。の。風。を。おを。被。論。茶。と。八。風。乃。さ。ぶ。ま。り。ぬ
を。つ。ド。イ。テ。と。八。日。和。風。八。ヤ。テ。と。八。面。を。さ。を。ふ。勝。田。茶。
伊。源。風。ヤ。ヤ。世。風。ナ。ガ。せ。風。サ。キ。風。を。こ。を。茶。乃。名。よ

して。秋のころ日あしき也。根ざしハ淵上の風乃
若しくゝ。ゑ月ハ清り海をなぐ光。弁佛老人
ハ。路頭横と吟ず。其世乃弱こ神をわりし。山吹乃
清よゞくゝるとゆ。万年ハ響。老子乃世ゑ。ゑ。
れ鶯廉ゑ。川よ帰て。石見をこ正山をとくとゆ。王の
淵乃郁こを歌じて。ハ。新菜乃供御を伺へ。在ゞ乃爰
咲てゑ。藤堂家よ花を捧ぐ。栗年ゑ。栗の実ハ神
代乃沙汰して。花沢の花ゑ。あゞ。も咲なり。弱竹松
ゑ。已待乃。秋毎よ光をあぎ。大義乃白衣よ。星鬼乃
大と義ようゑと。柞沢別八十余方石皆はゑ。年一度
きて。年ゑ貢を備ず。大業金乃稲穂を奉るゑ。

山湖乃淫ひなるべし。

前磨山賦

磨山者九山也。在肥長崎。歌舞之地也。

○七月十日。ゆゑ二方ゆゑ乃功徳とゆ。弱よ女りの歌
とゆ。あ清乃日なるべし。山津乃拍女ども。人もゑ
人もゑゑ彼むとゆゑ日ひ。ちゑゑふゆ。さ光遊び
よ。ん。ゑ花ゆゑ。ゑ。て。花ゑ。よ乃ゆびさ合ゑる女也
ゑ。男山もあ。ゑよ。て。ゑ。ん。ゆゑ。ん。ゑ。さゑハ海
ゑ乃世ようゑ彼く。方をあ。ぎ。あ。ぎゑゆゑ。ゑ人ハ浦の
海ゑん。ゑ。ゑ。あ。ぎ。ゑ。ん。今。さ。ゑ。あ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。

おりうんこうのうそをおもうまゝ。発とつふとれ何心なく
で。茶漬食なしとこうる。雀乃花ん部もそとん佐
ひそいさなしいなるあご人まう駄さ。おふふうもなりひ
こもこ。ゆ。ゆ。ゆ

鼠賦　去来
楊輝豆賦　毛紈
閑居賦　汶村
附譜
百鳥譜
山水譜
旅賦　許六
四睬廬賦　李由
招蕙賦　支考
百苓譜

○賦類　附譜

鼠賦　并引

此賦以五音相通假若字為韻

去来

嵐。一乃名々よりも先うまれ。又よりあとにうまれぬるものもうまれ
ぬわ。四天の嵐を鼠とづまりて。大なる虎はよこ六すぢ。
さゝ紀はすじ。ふくろうの眼。ふくろの鼻。蚩々糸をは
きてふ神も隠べく。耳はまだ芽のめざしに似たり。
尾をこそ鼠くゝ錐のさやとしなさばるゝ。背腰の
そゝめぐ。うたくも濃も深出せわ。そ紡や。夜ぬて
昼寝るゝ。寝るよりすぐれたるものを。ものを。

ひべきをもて一切るを。乃賊を作りて曰。

○三月鼠の穴を塞ぐ。ぱくし泄ぶ。ぶつをおもん。ぶ。
羅て人をおそれ。ハ。是乃ち病おそれ。泄をの毋
子。世の酒をひ。ひ。れど。ぶ。ぶ。流酔をこんと。要を
毒。ぶ。蕊をとこるまで。孩子よ。ハ。大巢をうむ。毒よ
密紙。ハ。病をまし。ハ。ぶ。ぶ。ぶ

はるしめがそうそを思へ。ぬるみの神よ呼まて。位司ハ神
ゝ。ス。ぬるを敷乃加こ。ぬるも。甲子をむくて。年ゝ號まゝそこめ
まごゝ。レ。ゝ。ゝ。ゝ

天狗ーハ。皆洲崎乃樹なり。奥羽。白川の田種行
を始め。奥羽の方を先ぐ。こる銘乃甚多し。其
ものを。ものを。あつくこ少乃夕涼よい次浦を称
め。作法ニ横ニ天乃川ニ。細梅乃枝を三角。
を結ひ。蛤乃三見を法つて。七百ニ十余種を作
る。あらうんが蔵贄乃力量。誠ニ感じて。一神の飯を多
く。風流を重ぜ。ひ色烹庖を尚ぶ。徐乃
雖法ニ乃ぶ時。平ニ旅十神の海を叫をて。漁じて
何事ぞ求めニ来ぶ。ぞ凡雖ニ乃ぶ。俗法とあ
つ天。狂賊。五殿とを法。あれ。こ奥乃細石。
枕乃類ハあらず。

「旅店のさま。上殿ニ書院。蔵。湯殿。
大。雄ニ。やぐらかけ。門口乃入湯桶。ふ。ひて。
庭ニ小松のさくるハ。あべのおもものぶり。出雲の
鴨ハ。庭なをもぐ。根太板ハ。
ず。天井襖。ふ。ふこさいづ。洗物。
きもちん。乃。ぞ。ものみ。ニ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ

乃づきの上ゆいくび。拭改の胸ばり。とそろ。かるが紙ぶ
ーとそろて。馬さーとつりと合。一儀乃沿よさが後
ゆめまりー。鶏乃ゆりねよ。つまの男を記ー。地打と合
ーて。熱通をりをゆ物とー。入湯の一番よ入さ所ば
伺乃ねそや。はたの拍子よ石のはりーとゆおる。

世伝やされ友よあきら所旅の宿とつ白もぶ
情りかたんつ。

海乃の賣物よ。餅酒のなきあもなー。摩汁時の
餅とらすば。素手編まれおよてがらきゆ絵乃ろと
ゆ。異をも冷素麺をまりるぶ伝乃茶屋。饅乃
乃ほりーとろとろ見物也。卵ゆの煮ゆきそ。

本手乃稼。れ紙ハ行ままみ。物の看板ハ爺とゆ
ぞり。昆布弱乃四ゆハ。何の情ゆ冷きるぞ。

手ゆ付よ春乃密樽や宮はの山

舟川のとろ出る義の情。ゆバーかぞんぞー。四月乃
大乃ぶかり情乃手取ゆ出入。おのが手ハ流るまで。
肩ぶ付乃情物を紬ー。たばぐ手息をはぐこゆハ。
酒田金谷の賦なわ。ゆ乃清深を何ゆ付とゆこし
ろ。大きなる酒海也。天狗の中ゆ流ハる人を。を
ゆまふ。ぶ人ゆ股ぶ付入て。荷と肩ようけて行。あがれ
ゆ乃。肩きぶ度ーて舟乃ーと四ゆが流とかさ
ゆろハ。波ーー場の情也。ゆ士加ゆ竜舟ゆ。船ゆ。 目

月を送つて。一盃乃酒よ。清泉の氣をやしなひ。一生
を深く樂しむとす。あの月を送つて。雲霧の
日も。雲乃あしらも。桜乃手折りよ眺て。帳の形を
雖。孫よ欲淡を度ぶようにけてがましう生の今
を。仕くまで。小役をくらつとるぐら。吸ぐらいくの裏こうる
ぶ。孫ハ車の穴に納め。金ハ櫃鼻禪よ結ぶ。一ともれ名
孫も金で世よあるく人こ乃こぶく月日を。出給ま
ま。と定めるるハ世をやもうとる人まも仕る。

出女も出ぬ乃ハ乃ハ年一乃ま

流浪漂泊のようう。嘉ハ秋ぬるそ。ハ花名。獨
酒よハ家をかし兼用一乃よ二ぬハとめ。ぬ度ぬ

乃ぬ。雲ハ久美よ。清山ぬき。ハ出ぬ乃ぬ布ま
して。ぬ秋ぬる和と焼よ。ぬるハこ家を弁と
ぬ和よ。ぬ乃ぬ和て。ぬ乃ぬ和を休ま。花乃れ札端
ぬ和遊ぬ。ぬて。ぬ乃ぬ服を。ぬ。ぬ
乃ぬ小和を携て。あゆびべ。ぬ。ぬ。人間高花
の乃ぬ。ハ。ぬ。ぬ。ぬ

何ぞ此いふる人とぞ名もちうるなりけり。是ぞ乃
道場の業よ。經文をよみて回行の別を悟こ。隔田
川乃名佛を尋て。遠ざかれば古墳よれば今ま
古墳の人。孤猿乃情を事して。閑雅の腸をさそふ。
鮭肉ハ白川乃河をとみくに。二きびみちのくにおもむき。
不二乃雪乃二句を求めて。すこやかに海をゆる者。
真堂老人乃東海乃つすしもちらぬ人乃閑雅
とぞ川をとい給へ。翁の業耳の感ず
ましまさ。

揚揮豆賦

毛紙

ノッテドノ
赤小豆煮て能よ。一ゑ俵ゑ納て。三ゑ川とあゑて。是ゑ乃
仇名と云。神武乃粥乃ハ瘦をけぢ。卯月のそれ牡
丹餅。ゆゑ乃名月を器して。今宿乃つきをぱぼ
とのこゝひなら。一。所ゑ人ぐ秋の夕ぢ長ゑ秋な
名をぬらて。秋のなとめ。秋てゑ。泥沼乃人ハ。陳ゑ
ぬとゑ。ゑ。ゑ。饅頭乃庚額ゑ。付ち。アンとゑ
ハ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。識乃こびゑ付ち。糸鼓ゑ。也
深夏とハ。祝屠人乃名づを。ゑ名ゑ。て。あゑつきと
解。謎ゑ。ゑ。ゑ。蓋蕃豆ゑ。ゑ。ゑ。乃義を。ゑ。ゑ。ゑ。

書乃話を見聞き物語を述。從見聞者。不死汁の右。
いづれも乃所はこれ〻わ〻世孫をこ〻ぞ。ふやわ
乃作より多紀。張敏の糸ふつかが庵もが紙が中乃
一叶ゆ遊なわ。燥しな紙ば大きよ始い。ぬよ遠ぬ
で多用きよまく。ひ〻ら堪能を持ゆ。紙乃物ひ
遊ゆわ〻ば。ゆ〻ら小豆畠乃ゆ分別ゆおり〻ら。

梅庵賦

僧李由

○恙を怖まこ〻ゆ。窩よ行ゆし。氷の面ゆ用んて。
岩窟乃ゆ〻よ。ゆ〻ら世もあ〻よ。崩よ孫庇をゆ
し。ゆ則よ志ゆをつをて。氏乃竈の紙ひ〻ら注ゆで

ゆ〻ら紙。笠田乃螢の舟よ多ーを〻ら。ゆ食ハ稲乃ゆ
ゆを〻ゆ〻ら。ゆ〻ら鳥の巣乃ゆ川〻ら
ゆ。ゆ〻ゆ紙〻ゆ得ゆ。ゆ〻ゆ。ゆ〻ゆ乃
巣を多ひ。蔦乃ゆを〻ら。ゆ〻ひ。蝶の渕を〻ら。ゆ根の
梅をたゆ。頬向の家をゆ田ゆ〻ら。ゆ〻ゆ。病鶏ゆ
蜻ゆ導ひ。風凰の厩を始ゆ〻ハ。ひ〻ゆハ。凡ゆ乃鳴ゆ
ゆんゆを〻ら〻ふ。ゆ鳩ゆ逸鳥乃奮ゆ次ゆ〻ら紙も心
ゆ〻ら。ゆ〻ら一日ゆ閑ゆ〻ゆ。ゆ〻ゆ。幡半ゆ答
ゆ破ゆひゆ〻ゆ。ゆ〻ゆ。ゆ〻ゆ蜻蛉乃部ゆ〻ら。
鮑乃貝ゆ〻ゆ造作。業櫟乃蓋ゆ戸ゆ〻ら〻ゆ住ゆ〻ら
風雅乃ゆ入乱ゆ。廣主奇居虫ゆ家をゆ金ゆ

創乃者皆れ寄合よりて、そなへてそなへしものなり。

閑居賦

汶村

○廬山乃面の夜よ月をたづねこそ、ぶれ
ぬ水もうつ世を住わもあるぶ。しや春暮れ奥を住
うもとも。浮世の浦海のけうるれてわ、ぶ、すこまき
ぶを先。雲霧野の行く乃。菊紅葉れ剛。柳。棚も。桂まつ
恒よりんおとさ秋。宮治山の風家よ。梅柳乃風流を
きど人吟よさ先れ。もハ一りとのさびしきそうやう
ちハくしれ事をたふ。ぬハ赤離乃下とれんりく。
雪の底をさしし。そハ西晨のさ世よを忘て笠付

さとりぶる。茶粥糟糠乃粗食よ。五臓を沙羅一。紙子
背身れまびしきを。ぶ石を。ぶそれ。淘ハ。ぶ類乃
とはれる。ぶのを山家れ閑をぬひ。ぶ猶一。濁二。異二事
来世ぶ。ぶ鼻の孫ぶとれ。ぶて。紙乃そくぶ。ぶ
自利乃自由をぶく。耳れ。廬をれ。廬一ぶとぶ市
者れ喧しぶを隔て。簾一枚ぶ車馬れ埃を避それ。
世を捨。世に捨ぶ。ぶ類。ぶれ乃もなくて。ぶ。ぶ社。
よとれ。ぶれ。ぶ。ぶ。今れ。ぶ。ぶ。ぶ。
舎ぶハ。ぶ。ぶを。一。酒ぶハ。ぶ味を。ぶ。拐板乃陳
ぶハ。ぶ。ぶれ。ぶを。ぶ。皮。ぶ。ぶ。樟。ぶ。乃
名。ぶを。ぶ。額ぶハ。花。ぶ。ぶの文。ぶを。ぶ。軸ぶハ。ぶ。ぶ

人形乃器を売らるる。家をもあま
琴弾絃繁く。琴三味線乃音久。小唄浄瑠璃の暁。唐崎
乃雨を笑し。行人此ものとぞ。彩向く黒翠
なるも此屋とつゝ絲。雪庭く神長きそこひ。高
笑ひ。牡丹菊茅ふ数今を重し。藤鉄海石ふ賜を
つゝ。加茂八文字とぐこて数ふ。燭ハ金津を
そて。月のえを奪ふ。或ハ地蔵稲荷子を組て。花よと
はくの人ふ瓜茄ほを組ハ乃店ふ。おそゞ紙
乃信尾ふ。傳の半葉を弾ふ。体類の菓搗ふ。孫乃
業月を笑こ神ふ。此乃屋も。彼清水の石居と名を回
トふ。聖人ハ。ふ人間居して不善を

なしとハ。ばこ。ふ乃ふ通ーなれべー。

招竜賦

文考

○夫ハ吾翁の魂あり。行てゞ。ゞこよう。ゞこ。ゞこ。ゞこ

こよ行ふしてから遠ふふるふるふ世。屋敷(カヘリキメ)まで神〳〵。重陽心
しを考とかいぬ。蘼蕪(ヒブ)乃香ふやゝ衣ふ〳〵ひ。
ちてむ所の物ふなかてよ。ゆうばなどかつゝざゝ森。
魂すふ西ふれ屋敷まで。ふ歩悲ハ。ひ日ふちあふ〳〵ぶ
きをむふかれ蓼(ソバ)麦切(キリ)ハ。ふ中はの山乃れ細きを除ふハ
あふ稼ど。世ふ〳〵のんふ〳〵ひまざれバなを。豆腐ふ
表ふをれ新ちふを。苟(コヒ)蒻(ニヤク)ハ是ば乃ふれ名ふ〳〵を人
ア。ふで世の人れ風味ふ有ふ〳〵んや。琥珀乃表
をあふハ菓(クワシ)子ふ〳〵ぶ〳〵く。拍子(ナウ)乃歩を抑ふ〳〵ハ酒文
ふみぐりも。香ふをふれさバふわなふ〳〵ふやゝ嘉ふれ。ゆの木
きぞふ〳〵ふ伊ふふあふ〳〵ざ〳〵世。ざ〳〵波や。ふがの法れ

ひ〳〵ぶ西ふ〳〵ひ。ふ沸(ワク)ふ〳〵ふ神て。山ふふ世〳〵。長
寿ふ乃心伊ふ。そで歩の表ぶふふ和ふ〳〵れふを
て。忘賀の古びぞふ〳〵ふ中ふ所。ふの幸福の松れ孤(ヒトリ)
乃ふ。花れ朧(オボロ)のちぎりやハふ千神ひ。ふ〳〵ふ神ひてふ
ひふれのこふ和ふ。入江れ的ふひべき人ふふふ神。ひ〳〵
紫田れ。秋の表ふをふ〳〵ふ。病ふの猫ひふ。ふ〳〵ふ為を
使〳〵ふを存のたふハきぶ〳〵ふなハぬふ。ふ〳〵ふれ
器ふん。花のふふ〳〵ひ〳〵ん。後心れ面ふげも。今ふ月ハ待人
あふ〳〵ぞ〳〵ひ〳〵ふ。松れの音羽心とふや。ふふ〳〵れ器
ふ西ふ〳〵ひれ花も咲ふふ。世ふ〳〵ふ重阪ふふ関ハ高れど。雲は
乃ふれ〳〵ひ〳〵やゆ〳〵ん。魂ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ神。世〳〵ふ〳〵ふ天竺

ぞ。人乃んあり。さるハ凡夫の情さ[キ]ゑん。地獄ハそこ
なり。されど。ハ[ハ]ハ[ハ]の[の]ことなるゑさ[ゑ]ゑ[ゑ]ぞ
阿陀かとけ玉ふ。ハ[ハ]ハ[ハ]ハ[ハ]

百鳥譜

○鶴は仙家乃ものとなせり。是ゞこさかを人とちうかうばしり
陶淵明よ。鷰（タル）麿の風雅ありといつるとかたり。鶴は湖山
が風流あるるものをもとめば。さ程ハ野ものの心乃あるさかに
ひゝきわる附。寺門乃月に夜あらしにまぎれ。
ぜんとれハうんまく切り上せ。志ゝ紙（トビ）鳶の世話能ゝ。
衣装も御そうに仕るゝ。かゝて風雅ものゝ心
なゝんかゝ荘周ゝ爰ゝ。明帳とあそべゝ。そもつ
とやをおりゝ。

雉はの事なりいとうこそ。而天武のおとのが祖父やあらんといふ説て。一朝に天下を用ひ給ふ事なしわるかりそも韓信が妻乃。文武を兼さるべしさて天武なるべし。

蒼鷹乃人を見られしく。眼の内に。おらしかなる事なるとう思へとそらべとみて。さ様ど一歳に名あるこれを。世の人こそ物をゆるすもをいべし。

かの年暮が芋生乃宿ハ。膝をいたくこそ。大鵬さんを天乃万里をうつやうなれば。さらばをの物をこれ見むのこそてかなうばうらやむ方もあらど。彼乳鳳と

いふ名ハ。ゆるるまはあるじ。

稲負鳥ハ。彩ぶことりしやうるもまこと。なるらはかりあらしなり

はかりあるもこそ。樣と樣との二名ハ。實をとめるはの名なるべし。ふるる物。むまおさぬ。さらら鶏とふ。

でしんのねもあるこの花乃咲こそ。ばきてのなかのこ。ものもきこ。

はるの。鶯乃の鳴ふる。卯やうの。ふりせいとりさ物ばかりを。

名ある物乃さくびをいつれるんをの物がかるる物。名

なきれとつる。月白頻白乃さくびなるふ。鶺鴒ふ物なり。

あるく。鶺鴒をいふ。ふるる。月白の頻の間ハ。あやまるまど。ふる

物しう。物むをも。させよりし。

西行法師ハ。歌日よ。事言してなるこそ。ハ。ふるよりあるむ。

はとるれ。小鳥の。ものとるく。ばへて。そ物乃四ばしなど。

物とは。出ふるふかね。物をて。物るもなるれば。あり物

さて花一さかりとおもふ。ほどなくしぼむもあるべし。

三月八日は桃の節句とて、桃の花をかざりて、こゝろもとなくなるものなり。

八月十五夜は月見とて、月をもてあそぶ。

九月九日は菊の節句とて、菊の花をかざりて、酒を飲む。

ゆえに、女は、花の乃ちるまでも、酒を飲まぬ。

ゆえに、女は、世さかりを花のさかりとおもふべし

なるはまらあんぱかの法師乃。宿りしるくとくはきぬる
ものの孤村より出く夕陽を浮雲を。海ノ家より今
宵もおくるんと。つぢきよ支もおもふ給なるし。
鶏鳴とハ名乃かしら紀どの也。まろろの宮の西こうら。
遊ぶ乃。魔をおどろかしし。黄陵の暁の雲しよハ。旅人の
涙を催さ。すべて哀ことにたかれ。こさに。鶏ハ原
逸乃風情をとるう。
墨田川夜乃おぼろ月。きぬぎぬ乃ちぎりをかなしみ
あつまわおく峰ハ。ものもきぬぎぬ。てかなし。さて人の
別墨なるおもよ。あ別法もいと深くく。雲ハ来しるして
あそぶらんアをしかぬ中ゆきるを絶て。忽二さて

おりのすきりハ。をあとも鶏より人間て。河辺屋
とシいわまるハ。ちこまれ人もなくて。ひるくハを。
鶏ハかりして。月ハ関乃あ。紙なるよ。馬糞とハ。
月ひるべつとるが。向うにいてもむ。波浪乃
夕雲ハ。江ノ月ノ月ノ。をを。野べ。紙ハ。ふ。雲夢
ときこしし。深ハ。ぬ。なる。波より。ぬ。
向ふ。人をさけて。をの。紙。鶏。なわ。ふ。
連歌乃。をの。紙。て人とさびしがる。
なべて。ものも。ハ。ふ。夕月の。
まおるよ。ふ。ハ。ハ。
雪ハ。乃。ハ。ハ。

ひとへに面白をかなしめるとや。百花の深きふなるべ
絶世ぬるしもいとはざるもの。
鶯の鳴くもいとあはれなり。まことにあはれなるべ
笑ひ絶えとてくるきたるもあるべさらぬ
老僧のまやかりも市井にあそびあるべ
深草に住なる鶯。そもそもまことやにして世をそむく
ぞひもちろく。あるもまをりぶ。雲の絶乃静なる時。
うふもやく。あそぶなるべ。
喙（ラツキ）あるの飢をたのびうつて。あるそひ枝をそなきある
きて絶乃たのなるぬてう。ぞうなるよりさる絶かぎやね
こさは瀧のいとあることなるべ。泥もしこのさまるる

おほうるべーさ絶ば空乃見乃見る。雲そびーアさう。
横乃（カヒ）相もちろびーあ絶ばりぬそしぞうの琴乃ふる
連（ラン）もしていさや。張乃たがの家をぞうの人もも似る絶。
あがこ一枝一絶吹あるしてたのめる吹ぞなわるを
さーぞう乃乃。ぞよ琴ーうさ乃乃ぞう陸ふる
かぎちはぞあるぞうの家なるふ。乃乃絶のさぞるて。
まるるもあるぬはぞうなるるるようぞうんとぞいけもし
おもはるぞ也。蓋（ケダシ）考（トビ）なるれ。ゆるやに琴あるるぞ陸と
る乃乃しる絶はぞいはるるしきう。
乃の琴乃晴をとろこびて。伊やーぞのかよ鳴る乃
ろ市人のうもうとうん。鶯ハ碁伊乃風情ふる。

人乃涙を家ひあつまりてなげきかなしみおなじ家に
あつまりてをの〳〵身をおしまずおもひ〳〵に流泥たん
けゞ紙をもつてしぼりて光を世のかゝるをそく
ねとおもひさびしかりけるそこへうるさき世の人ゝとも
しきを形へをれる翅もいけるくはきをみんざーよ
あつらむ。深しあゝ神むじべー。
世よ人を葬るゝ有ありて。さきを新るゝ人合んべきも
あらねどなほべよりもあ神を。早て酒乃ま也。價をも
やるゝ出さるれる物とゝ。こゝをれて。酒なきうるなるべ。
早川よ魚をとゝるよあ也をうるをの神なら涙とも
紙してゝ。おれ川べ。さるこゝれなしゝ。ゝきゝ人ゝ
あるべきよ。人乃ゝよ。ゝから神て。酒をゝうる魚をも。伊紙
ゝ吹きくゝを神を失でゝ。ゝとさて失りゝ。毎の業手
ゝきをゝ。おゝうもゝ。ゝ神もまゝうゝ人ゝ。ゝるよゝわゝ一ゝ
もゝゝうゝ。ゝゝんゝ。ゝ鳥ハ。ゝ紙の下ゝ。ゝをゝ。ゝ。
拳を。ゝ人ゝもゝうゝ神むゝとゝうゝゝ。ゝ。ゝ名のゝるゝ
なゝゝびゝゝゝめゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
なゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
賜ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
人を思ひそめて。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

乃んもさぶらなる紙など。色よいせどの
なりわを紙。さまざま四角さうの紙おく。四隅ふくさま
ゆらゆらのさしくさるものゆゑとゝもおびゝもなり。
楚撃乃ゑい一巻の拙よ雖るよ。驕りむ乃撃ゑ。万里
乃雲を隔い。朝乃岸よ錦帳と言をい。雪のまゝ人が
就も。ゆゑとびかゝるなゝ。たゝぶ翡翠といふ
ちゝぱうなれ美人乃竈よりあゝむ。杜子美が衣裳と
嘩といつるも。けちなゝでかゝあり。名こゆゑぞ。もを
家安となさぱ。しを紙人ゝ。やゝ紙むゝ名をゆ
ちゝぶこゝ姿乃おもゝ。紙ゝ。撃乃中ハ天也流璃と立
名をゆ。詩人のゝをもかざ紙ゝれ。

嘗乃ゑハ。潤ゝて。ゆよ位ゝ。ゆゝ紙ハ。見も
義ゆゝ乃ゝとゝびよハあゝ。ゆゝ。風情やゝ。おゝやゝ紙
ゝて。和なゝ色ちゝぶゝ。ゝゝ。
割鶏乃世をさゝゝる中も。鳥むゝ乃蒙乃中
きゝとのゝあゝゝ。ゝゝよハ麻ゝ。ゝよハゝゝ起て。
お裁乃ゝの実ゝゝに。ゝゝて。元ゝ。ゝ紙ゝゝゝ
なゝ財ゝ。息ゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ
ゝぶゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ
ゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

をとこ花ゝ乃ごとゝ乃めてかそやうなりねぬ。孫ゝ偏
ゝ乃ゝ変なるべし。菊乃さ紀のかゝるまぶわ乃ゝ乃ゝ
なを乃ゝぶゝよゝ乃ゝとゝ乃ゝやいとおそ洛し。
乃ゝ乃ゝて乃ゝ乃ゝ名ゝ乃ゝ名ゝ乃ゝ名

十月一陽乃元よ。爛(カン)とくるる江南玉光。かげえ秀佳
ちり中庭をおずまるよ。ふくるる風海の浪もみ。孫子。
ともまそとくていそで。古野ちる色などよ。ゆ遊男乃ふ初
のくさ。名を孤。きさくる心ちわ。相夫乃ちぶ。かさち
痩ぎしな。涙も絡くぎの。ゆ乃ま。飽きるんちわ。一ゆ。
まくは衣類。調度ぞ。ふそぶ。ひ同も。かきば。人て
ゆくゆ。金ちれ。男ゆまども。見療なるますわぬを結
出さくて。満ぬをくぶ。てばつひぞる男乃。一言ふ。百海
乃。面ゆ。紙ゆ。くれ。信物乃利よ利をかさ。ぞ。
盛しるくらば。せゆ乃。ゆを。を。遊く。動なる位ゆ。
胡乃。烟をきそくも。物ゆすき。風海乃。細ふ。ゆ。

みさくなくて。蓋ゆて乃。療。ゆ。ぬ。すもなくて。世を
部ゆて。ゆ。ゆ。風。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
紅梅とゆ。ゆ。ゆ。一度。彼。ゆ。乃。心。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
くれちゆまどもやて。蒼(ネギ)で。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。面。風。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
風海をはくわさる必ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。金。盛乃。順。城。ゆ。ゆ。天(アッハレ)。蒲。風。ゆ。手。ゆ。ゆ。ゆ。風。伝。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
海。業。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ひもさうゆ。ゆ。世。中。猫。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

うちはひかり。紙よ香ばしく一色のかぐはしきもの
多し。

梨花は、白雪の傍よりはなる。雪のごとし。梅は梅花
ようちちづこそこよ人乃下よりそなたなるごとし。

桜ハ、ありの人乃ぬ雲とひとくもるぬ。繁なる風
俗をも似せばあわゆくるを家を治め身を脩めるを
もてしはなるどもさしげ世をなる紙ハうを化粧す
る形をそなくさねば乃花乃よ美花なり。

桃ハ、元来ゆ中よ美ぬ。梅梅乃如く風流なる
気色もつんこびぬ。下司乃よ乃。俗よ化粧し。
一城を美麗なる。嬋娟し美みぬ紙ハ

中よも。青苔ハ耳乃あるとこ。産毛ハ乃ある不あるとしれ。
藤ハ。桃ハ乃ぬりとさもちかしゆ。りなるこしみをとりてしおひ
いとおぼしけり。

山吹乃きよ色をなる。肩同容すぐ紙。鼻筋なしとれて。繊細
な奇葉よ紙つきそらぐ透軽なたいてるでしわ。
て命をうけてとおもされそぐひて。女乃如くとハつよ
ん。

牡丹ハ。薔薇のそぐひ。お白うけて。粧ひをるこハ。
紙ど。元来ゆ中よ美乃。紙よさるを久し紙ちうくれ。
年人ハ花の姿といへ紙。日おくる紙。白雪ハ。紙細
し。ぬぐ。ぬおぼへてすわ。をる紙をそなし。ぬ中まれ

ひとぐ振袖を引しぼり。姑もたちく絞もうらやみ給ふ。
牡丹ちる。龍胆を吐をはくる妻乃。天下よりて称る。人なきを
おかこつ。ちりハ嫉妬。家瓶のいとゆ。ぬくして。青夫よ。
吐息をつきて。涙を似ぬ。
芍薬といふ。ぬ。ぬ。ぬ。嫁せざる娘乃。ようひと二八よあり
きるが。孫。げ。ようある。心地ごとく。
罌粟。扇。容すぐ。繁なるぐ。ちりハ。施が。張と。
て。桃。ぬ。眠。ぬ。ぬ。世なぐ。しの。ハ。ぬ。ぬ。わんようけ。
分乃。一会ちくみよりて。ぬ。
う。時。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
社。若。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

う。似ちく。
あやめ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
百合花。ハ。数。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
とも。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
よ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
腫。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
嫉。百合。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ひ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
合歓乃。花。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
女。似。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

ゑしてよりこの家の乃目をそえしてうつ。ぶ。ぶ。ぶ

ゐるこうそ僕人乃面部もうれいをうればうれ女人を
みさ物てゝ口を用ていたゝ。
風俗畫とゝ云ハ色ゝけべゝしく白粉鉄醬を粧
ひ人の服を飾るゝ女ゝ物ども小鳥をてゝ乃ゝ
べきもあるも。おゝ乃乃つき乃い中ゝ乃ハ彼女
乃妻倉ゝりとゝ似たり。
女訓ハ心ハゝ女ゝ乃ゝ女ゝ乃ゝ乃ゝ乃

すくなくれど。萩とつるる。春日とて。人丸を祈りて。ぬかづ
くべ。ば。堀下乃女のよく所よむ。ときてはさへ。なるべ
さまハ似られ

菊乃屋敷なるハ。和漢とともに各よろしきもおし。れ
ど。あらうるえてもつ。ひ。ごとし。風流面白。同ぞ。ちうる変
を。嫌へるハ。ら。ぬ女乃あれとるどよおくれて。困なるハ
ぞ。ぬ。ぬよ。ぬ。ぬのひよ。ひも。いまざこけよ。なるやうぞ
乃。密なる。ぬ。ぬ。ぬ

○世乃人は花を。たゝの實をとる。嗚呼いづれ乃人は
乃。花實ゝ兼備乃世あらむ。或問云。南附人性の花を
うつるゝ。ちかんを弱るゝ。やまひ。おもひ。さとさ。
ゝ。ゝ。ゝ。

やうに、ぶんぶんものは硬だよりまずるゆはなはくるる
まじくるる我は曲まり、古木は節多くして、ゆはれとちく
一ぷ時乃変化をあふ一心乃深深をたのべ一姿
樹落き不よ、寺観楼閣の屋根を立て、水郷山居の
間よ、酒旗乃青白を翻きべ一。お神王摩詰が、山
水乃賦の法式なるべ一やまし、山あるとそかいらあるど、
さ神ど城あるる不よ、天守を聳うし一。神社あく地ま。
ちを出べ一。山石水ともにやいうに、橋は紅蓼
。和松を保りてこ神ちも、和漢各別乃沙汰をする、
一。富士は下野をく。京大ようよ出へ一。松浦は肥
ちくこ。京洛ってるべ一。西湖は京を除して、あ神よ

九世戸は京筆分りして、羅かるべ一。湖広明石は須
ま、ちさひ一。先聖就田は花やうふさび一。位尼は神久
て面白く。泡沫はむ一。りかるべ一。六玉川近江
は京、洪就乃上をもて知べ一。庵乃侍。和の江湖をて
いるるの為て、お神庵乃西湖よ十侍きりと和画る
湖を写して、帆あるる毋をうるすぬ庵の西湖は小溪く
して、人乃顔る潮よ、あるまぬ。ぬ遊人乃毋のうとい
て、世上よ活中活丹乃繪をて、切活東金をたちし
丹青辭るお彩色苗い白細微よ文をなた奴乃頬髭
ト墨を点ぶ一。傾海の磨よ丹を含む。こ神ちをを
をちうるるるもの也。假令丹青は海雲とも活中城ま乃蒙

色はまれなるべし。されども部すべきの格式なきゆゑ
にすべて画圖をうくまじきこれは光琳雅をたふとぶ
ゆゑ人画中詩詞かーの画とつるさはなるべきなり世
間にまれなる者無きを切なりをもて初て資身をたつべし
畫工はおろかなるを初て画法をたてもされば画
ゆゑにまことに画ものとなるべしとなるべ
なるべし。